

合宿通学

プロフィール

地域

東京都の再開発地区にあり、古くからの住民と、新たに建設された集合住宅に転居してきた新住民が生活している。荒川区の一割以上が暮らす町会は、地域の学校として子どもたちを支援している。

学校

児童数が急激に増加し平成21年度は区内最大規模校となる。区立第三中学校と小中一貫教育を推進するなど、校内研究に力を注ぐとともに、学力向上を目指し放課後に個別指導を実施している。

PTA

児童数の増加に伴い、PTAの活動も毎年変化している。新たに転居してこられた子どもたちや会員の皆様が、一日も早く学校、地域に馴染めるよう、力と心を合わせる活動をめざしている。

1 合宿通学の趣旨

子どもたちが、親元から離れ、異年齢での共同生活や地域での体験活動をしながら通学することにより、日頃の家庭の大切さを改めて見つめ直す機会とする。さらに、子ども同士のふれあいや、大人とのコミュニケーションの中から人間関係を深め、生きることの実感や喜びを味わいながら「生きる力」を身に付けていく。そして汐入小学校のPTAは、地域・保護者と学校が互いに連携し「地域の教育力の向上を図り、児童の生活習慣の確立を含めた健全育成を最大の目的とし、この合宿通学を重要なPTA活動の柱としている。

※活動のねらい

- ① 子どもたちが家から離れ、集団で自炊する生活をとおして、協力することの大切さを学ぶ。
- ② 子どもが主体的に企画したり意見を出したりして活動することにより、責任感と規律ある生活態度を学ぶ。
- ③ 年齢の違う友だちと仲良く過ごすことや、お世話になる人に礼儀正しくすることを学ぶ。
- ④ 学校で行う土曜スクール（もちつきや検定試験）などから学校行事・地域行事などの大切さを学ぶ。

2 活動の概要

(1) 活動の時期と期間

この合宿通学は、平成十四年から地域・PTAと学校が主体となって活動を始め、平成二十年度で七回目となる。

毎年実施時期は、二学期の十一月上旬であり、平成二十年度は、十一月四日（火）～十一月八日（土）の四泊五日で行った。例年火曜日から土曜日までの期間で実施している。

(2) 活動場所

地域の公共施設での体験学習や商店街での職場体験を主な活動としている。地域商店街での買い出しや宿泊所における調理実習などを子ども自ら計画させ、PTA・学校の職員、母親の会や汐入小学校父親の会が自炊生活や銭湯への引率などを行っている。

この汐入地区は東京都の再開発地域であり、集合型の住居が多数を占めており、その建物の集会室を利用し宿泊している。

【宿泊場所】

荒川区南千住けやき通り南三番館・北七番館 集会室

(3) 参加児童

汐入小学校児童（四年生～六年生）全

合宿通学の一日の流れ

【集会室→宿泊生活】

6:00…起床・朝食準備
6:30…ラジオ体操
7:00…朝食・片づけ登校準備
7:45…全員集合・登校

【学校生活】

8:00…登校
学校生活開始
15:45…下校（土曜日は午前）

【体験活動】

16:00…体験学習開始
→消防署、都立航空高等専門学校、
地域商店での職場体験など

【集会室→宿泊生活】

17:00…買い出し・夕食準備
18:00…宿題（個別学習等）
19:00…夕食・片づけ
20:00…銭湯へ出発・戻り
21:00…就寝準備・就寝

員に実施要項を配布し、参加希望者を募る。参加希望者全員から参加する理由を示す論文を提出させ、学校教職員及び合宿通学実行委員会です選考の上、三十名程度の参加者を決定する。

(4) 合宿通学に関わる指導者

地域町会関係者、民生児童員、地域母親の会、汐入小学校教職員、汐入小学校PTA、汐入小学校父親の会、学生ボランティア等、三十名を超えるスタッフにより子どもたちの指導に関わっている。

(5) 地域商店街の協力

地域団体・・・荒川消防署汐入出張所、都立航空高等専門学校

(6) 活動の概要

地域商店・・・ベルポート汐入商店街、草津湯



体験活動Ⅰ（消防署）



体験活動Ⅱ（消防署）



職場体験（菓子店）



集会室風景

(7)参加助成

合宿通学の事業は、独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターの「夢基金」及び荒川区教育委員会、汐入町会の助成と参加者からの参加費により運営している。活動に関わる庶務は汐入小学校教員が行っている。

3 活動の成果

汐入小学校は全校児童九百五十名と東京都内屈指のマンモス校である。学級数も三十学級近くあり、毎年転入児童だけでも百人近くに上る。そのような中で子どもたちの人間関係の結びつきが希薄になるなど、友だち同士の交流や地域の文化に触れる機会が乏しい。しかし、合宿通学を体験した児童は、ほぼ全員が「参加してよかった。」「来年も

また参加する。」（六年生を除く）と答えているように、四泊五日の宿泊体験から自立した生活をするこの大切さを知り自宅に帰っていく。合宿通学体験記から主に以下のことが子どもたちから返ってきた。

○合宿通学では、日頃できない体験活動から仕事の大変さ職場の人の苦労などが分かった。

○はじめはけんかをしたけれど何日かしたら仲直りができた。

○ご飯をいつも作ってくれる母の大変さが分かった。これからは家の仕事を手伝いたい。

○自分で起きて、みんなでご飯を用意して、食べて片づけることができて自信がついた。これからの生活に活かしたい。

【体験記より】

私は、この合宿通学で都立航空高等学校や荒川消防署汐入出張所に行ったことがとても楽しかったし、勉強になりました。また、商店街の職場体験ではスパーで、品物の前だしでした。すごく勉強になり仕事の仕組みが分かりました。

私は班のリーダーになりました。けんかをしたこともありましたが、最後にはA班をまとめることが出来てよかったです。無事に怪我無く仲良くこの合宿通学を終えられてうれしです。

体験した後には、いろいろな資料や消しゴム、クリアーファイルなど、また、地域の方からはお菓子をいただき感激しました。最後の閉校式では校長先生から修了証をいただきました。来年も六年生として合宿通学に参加したいと思います。(五年生女子)

4 今後の課題

(1) 新たな小学校の誕生

平成二十二年度より汐入地区に新しく小学校が誕生する。新たな小学校と汐入小学校がこれまでと同じ趣旨の下、連携してこの合宿通学を実施することを地域は願っている。そのため、平成二十一年度に組織のあり方を検討し、合同実施に向けた実行委員会を発足させる必要がある。現在の集会室が二つの地区にそれぞれ一つ存在することから、宿泊施設については問題が生じないが、それぞれ十五

名規模の収容規模のため、その範囲で参加者を募集する。

(2) 男子ボランティアの不足

例年宿泊施設に寝泊まりする学生スタッフは女子大学生が多い。活動内容と宿泊体験などから男子学生の力を借りる場合も多いため、男子学生の募集を計画的に募ることが大切である。

(3) 体験学習の内容検討

学校から宿泊所に戻り夕方暗くならない時間に体験学習を行うことから、地域の施設が限定され、毎年参加している児童からはやや物足りない声も聞こえる。今後活動エリアを拡大するか、活動内容を見直すなど、実施内容の工夫改善が求められる。

展望

「合宿通学」は、今回で七回目という。「計画↓実践↓評価」よろしく、継続的に積み上げられてきた適切な事例といえよう。東京都の再開発地区、新旧住民の交流、区内最大規模校、小中一貫教育推進校等々、多彩な教育上の課題を抱えた小学校の、学校・PTA・地域社会が一体的に取り組んだ事例であるだけに示唆に富んでいる。近々、同地区に新小学校が誕生のころと、これまでの「活動のねらい」を一層生かし、PTAが相互に連携協力して、児童の生活習慣の更なる確立を図られることを期待したい。